

新「保育園だより」創刊



保育園だより

《創刊号》所り園
発行白ゆり園
発第白育
保第二保
編集：長尾典明
086-284-5224
info@dai2-shirayuri.com

みんなで運動会を成功させるゾ！

9月の目標は縄跳び

運動会に向け各クラスの目標を全員が達成出来る様に頑張ります。ゆり組（5歳児）は前跳び3回前二重跳び5回跳べるよう取組んでいます。

第二白ゆり保育園は平成9年、当地に移転して以来一貫して園児たちの体力向上をねらいに縄跳びを保育活動に取り入れてきました。白ゆり式保育をご指導していただいている、元新見公立短期大学幼児教育学科教授和多美知子先生の著書には、『今も昔も子ども達は変わることなく山野や海川で遊ぶことを好み、既製の道具ではない自然にあ



るもの（木・竹・石・藁等）を上手に使いながら、子ども同士が伝承している」と、書かれている。その中でも特に、縄跳びは身近な材料（藁縄）を使って手軽にできる子ども達にとっても達成しにくい大切な遊びと位置づけられていた。

るもの（木・竹・石・藁等）を上手に使いながら、子ども同士が伝承している」と、書かれている。その中でも特に、縄跳びは身近な材料（藁縄）を使って手軽にできる子ども達にとっても達成しにくい大切な遊びと位置づけられていた。

保育園でも、限られた園庭で効果的に運動能力を高めながら、楽しく時にはスリリングに遊ぶことができる『縄跳び』を主な遊びに位置付け日々取り組んでいます。使用している縄は、和多先生が長年現場において実践してこられ、最も子ども達に合った、東京製綱製造の8ミリのクレモノロープで、0歳児から5歳児まで年齢発達に応じた長さに調整しています。跳ぶ

ゆり組十八名蒜山登山で大自然を体感する

毎年恒例の蒜山キャンプ

八月三日早朝、ゆり組一八名と職員五名が快晴の蒜山二俣山に登頂しました。保育園では平成九年からずっと夏場に蒜山登山に出掛けていました。昔は、キャンプ場で薪で

上での基本は各年齢とも前跳びの駆け足跳びで、大縄跳びは、子どもたち一人ひとりのリズムに担任が合わせるように留意しています。運動会で、ゆり組（5歳児）は、前跳び3回前二重跳び5回、全員達成を目標に頑張ります。また、大縄跳びでは、子ども達が気持ちよく跳べる様に、先生達も技量の習熟に努めてまいります。（今年の運動会は一〇月一五土日曜日です。）

した。下山中、ちよつとしたハブニングがありました。先生がうっかり足を滑らせ無線機を落とし、しまったのです。下山してから気付いたので、仕方なく諦めました。偶然途中ですれ違った、おじいちゃんやが拾って保育園までわざわざ知らせてくれました。お礼に、保育園の桃を贈ったところ、丁寧なお礼状が届き、『今まで4回園児さんですれ違いましたが、とても良い体験をしている保育園だと出会う度に思っていた』と、書かれていました。（嬉）とても親切なおじいちゃんに感謝感激です。

（親切なおじいちゃんの話）

年、登山や海等、大自然の中で活動を行う園が段々減少してきていますが、本園では子ども達の成長発達に必要なのは今後も続けてまいりますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

暑かった夏も終わりを迎える秋を迎えようとしています。中庭に設置していたプールはきれいに片づき、子ども達の大きな声や、元気に飛び込む姿が思い出されます。プール活動は夏場暑さを気にせず身体を

暑かった夏の思い出

鍛えられる重要な遊びなので、来年以降も安全を第一に考え継続していきたくと考えています。ゆり組は、毎夏恒例の蒜山登山を無事

達成しました。保育園では体験できない大自然を体感しながら鍛えられる重要な遊びと位置づけられていた。



（二俣山山頂1000m）

特集！歩数と体温の関係とは？

子ども達が万歩計を付けている真の理由とは！？

本園では以前から万歩計を園児全員に装着して日々保育を行っています。成り立ちについて今回具体的に説明したいと思います。1頁にも記載している和多先生の研究によると、①午前9時から午後4時までの7時間に、万歩計による歩数が毎日平均して1万3000歩以上確保されれば、体温が上昇して低体温が消え、同時に、問題行動が削減又は軽くなる。②同じ1万歩から1万5000歩以上の歩数なら、

室内での歩数よりも戸外での歩数のほうが問題行動は早く消滅する。③同じ歩数で同じ動きならば、運動場の狭い園より広い園の子どものほうが問題行動は早く消滅する。また、運動場より野山での動きのほうが、問題行動は早く消滅する、という①②③の研究成果が見られたそうです。本園ではこの和多先生の研究結果を基に日々保育を行っています。では、どの程度の歩数が記録されているかというと、昨年度の

平均歩数が1万3000歩を超えるよ！

【2016】8月 歩数分析

| 順位氏名 | 歩数 |
|------|--------|
| A1児 | 14,202 |
| A2児 | 14,109 |
| A3児 | 13,242 |
| A4児 | 12,876 |
| A5児 | 12,584 |
| A6児 | 12,168 |
| A7児 | 11,505 |
| A8児 | 11,176 |
| A9児 | 11,088 |
| A10児 | 11,078 |
| A11児 | 10,772 |
| A12児 | 10,703 |
| A13児 | 10,576 |
| A14児 | 10,504 |
| A15児 | 10,208 |
| A16児 | 10,018 |
| A17児 | 9,946 |
| A18児 | 9,807 |
| A19児 | 9,640 |
| A20児 | 9,607 |
| A21児 | 9,455 |
| A22児 | 9,203 |
| 平均値 | 11,113 |

| 歩数範囲 | 2016 | 2015 |
|-------------|------|------|
| 20000～ | | |
| 19000～19999 | | |
| 18000～18999 | | |
| 17000～17999 | | 2 |
| 16000～16999 | | 3 |
| 15000～15999 | | |
| 14000～14999 | 2 | 5 |
| 13000～13999 | 1 | 10 |
| 12000～12999 | 3 | 5 |
| 11000～11999 | 4 | 3 |
| 10000～10999 | 6 | |
| 9000～9999 | 6 | |
| 8000～8999 | | |
| 7000～7999 | | |
| 6000～6999 | | |
| 5000～5999 | | |
| 4000～4999 | | |
| 3000～3999 | | |
| 2000～2999 | | |
| 1000～1999 | | |
| 1～999 | | |
| 0 | | |
| 合計人数 | 22 | 28 |



『ゆり組歩数記録簿』
今年も歩数が伸び悩んでいます

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2016 | 11,909 | 14,448 | 13,252 | 12,476 | 11,113 | | | | | | | | 12,640 |
| 2015 | 17,273 | 17,744 | 16,354 | 14,140 | 13,889 | 18,725 | 18,792 | 15,839 | 13,496 | 15,596 | 16,236 | 15,840 | 16,160 |
| 2014 | 14,962 | 18,436 | 16,946 | 13,184 | 13,091 | 14,922 | 15,491 | 14,129 | 12,507 | 12,337 | 15,644 | 14,403 | 14,673 |
| 2013 | 13,288 | 18,171 | 17,717 | 15,781 | 14,841 | 17,052 | 15,979 | 15,967 | 15,841 | 17,740 | 13,891 | 19,183 | 16,286 |
| 2012 (9月) | 16,280 | 15,261 | 13,400 | 13,613 | 15,023 | 15,269 | 13,888 | 14,558 | 11,751 | 14,697 | 12,665 | 12,148 | 14,046 |
| 2012 | 11,647 | 13,882 | 13,629 | 9,762 | 8,622 | 13,922 | 14,002 | 10,221 | 13,160 | 16,367 | 11,765 | 14,706 | 12,642 |
| 2011 | 12,692 | 14,439 | 12,651 | 11,865 | 10,670 | 13,723 | 13,376 | 13,431 | 12,293 | 12,677 | 9,986 | 10,623 | 12,369 |
| 2010 | 12,865 | 14,610 | 13,321 | 11,178 | 8,960 | 13,673 | 13,207 | 12,369 | 11,341 | 12,980 | 10,455 | 12,905 | 12,322 |
| 昨年増減 | -5,364 | -3,296 | -3,102 | -1,664 | -2,778 | -18,725 | -18,792 | -15,839 | -13,496 | -15,596 | -16,236 | -15,840 | -10,894 |
| 昨年対比 | 68.9% | 81.4% | 81.0% | 88.2% | 80.0% | | | | | | | | 33.3% |

全国で低体温の子ども達が増えている！

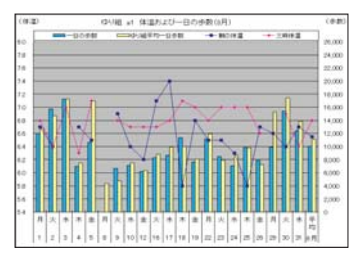
第二白ゆり保育園の子どもの体温は高めです。

皆さんは『体温』に関する定義をご存知でしょうか？国内では37.5度が発熱で、38度以上が高熱と感染症法で定められています。園児が発熱した際のお迎え目安の体温と同じです。我園では子ども達が登園した時と、3時に毎回体温を測定し、発熱の有無をチェックしています。また、計測したこれらのデータは園児個々にグラフ化して、『低体温』気

味の子ども達が増えています。我園では指導の判断材料として役立てています。ちなみに本園の子どもの今年7月3時の平均体温は、『ゆり組36.8度』、『ばら組36.8度』、『すみれ組36.6度』

6度』、『さくら組36.7度』、『もも組36.8度』、『うめ組36.9度』で、一般の子どもと比べて高い傾向を示しています。（※比較した体温データは体温計メーカーのテルモ体温研究所ホームページに記載されています。）

尚、記録した『体温』と『歩数』のデータを比較すると、歩数が増えるほど体温が高くなる傾向があります。



『ゆり組』平均歩数1万1600歩／『ばら組』1万4397歩／『すみれ組』1万1832歩／『さくら組』1万123

8歩／『もも組』8891歩／『うめ組』4392歩が記録です。『ゆり組』『ばら組』は和多先生の研究歩数1万3000歩に達しており、該当園児は皆、元気に保育園生活を営むことができ、卒業進級することができました。今年度は、雨天の日が多く屋外での活動がなかなかできていないので、歩数が昨年比約80%にとどまっているので、9月、10月で歩数をどんどん上乗せしようと保育士一同知恵を絞っている最中です。保護者の皆様にも早めの登園で、ご協力をお願い申し上げます。

特に、ゆり組は運動会に向けて一輪車・竹馬・日本太鼓等色々なカリキュラムを行なうので、限られた時間を大切に使い歩数アップに取り組みます。お月見会のお泊り保育では、毎年恒例の朝日に向かってラジオ体操を行った後、思いっきり運動場を駆け回り歩数のアップに頑張ります。左に掲載している表は、今年8月度の『ゆり組』の歩数表ですが、各クラス担任は毎月の歩数と2010年度以降のデータを比較して、増減の原因を究明しながら、子ども達の指導に役立てています。

四国フェリー乗船中！(宇野→高松)



学童ゆり組交流遠足

8月26日(金) 夏休み恒例の『ゆり組&学童』交流遠足に行ってきました。行先は四国香川県で、4年前からはフェリーを利用してあります。私が子供の頃、四国に行くには、フェリーしかありませんでしたが、今は瀬戸大橋

を利用して自動車やマリンライナーで往来するのが主流になり、大きなフェリーに乗船する機会が減ってしまいました。交流遠足では日頃体験できない大自然を体感したり、乗り物や集団行動などの社会の仕組みについて楽しみながら学習しています。現在四国フェリー宇高航路は採算が赤字なので

廃止が検討されているようです。来年は乗船できるかどうか微妙ですが、今後も出来る限り乗船体験は続けていきたいですね。保護者の皆様も時には船旅を楽しみながら、合わせて航路の存続にもご協力お願い申し上げます。次回の乗物試乗体験は来年3月の新幹線こだま号で行く『ゆり組お別れ遠足』です。

プール参観日

オリンピック選手のように

6月27日(月)から始まったプール活動も9月2日(金)に無事に終了することができました。近年は、温暖化による影響で夏の猛暑が当たり前になり、野外での運動が段々難しくなっていく中、プール活動は、暑さの中でも熱中症を気にせず、効果的に筋力アップができる活動として取組んでいます。プールは各クラス毎に目標を定めており、うめ・もも組(0・1歳)

は、保育士と一緒にプールに入り水に慣れながら親しむことを目標としています。さくら組(2歳児)は、保育士の補助を受けながら楽しく伸び伸び水遊びができることを目標として頑張っています。3歳児クラスからは岡山スポーツクラブ(OSK)の南條先生をお迎えして本格的な水泳活動に取組んでいます。すみれ組(3歳児)は、全身の力を抜いて浮いた

り、バタ足をしながら一人でプールを泳いだり飛び込み等を行っています。ばら組(4歳児)は、飛び込みでプールの端から端までの9mを泳ぎ切る練習をしています。ゆり組(5歳児)は、プール1周(18m)を息継ぎしながら泳ぎ切ったり、南條先生の指導の下、クロールの練習を行っています。南條先生は国立の体育大学をご卒業され体育の教員免許も持たれているので、小学校に就学後も困らないような確なご指導をして下さっているのです。来年もどうかよろしくお願ひします。

OSK南條先生にご指導ありがとうございました

水道料金の有難い話



本園の水道料金は毎月約10万円位ですが、夏はプールが始まるので水道

代がグーンと跳ね上がり、実際はプールの水道代の約9割が岡山市水道局から割り引きされています。因にプール一杯の水道代は約8千円なので、本来一夏で約30万円位のプール水道料金が必要ですが、実質3万円位の負担で済んでいます。プール活動が毎夏できるのも岡山市水道局のおかげです。これからも水資源を大切に、毎年プール活動が思いっきりできるような皆で協力していきましょう。

身土不二 地産地消



8月3日の給食は国産鰻の『ひつまぶしと鰻巻卵焼き』でした。国産鰻は戸田鮮魚店の店主が生きた鰻26匹を朝焼き上げ届けてくれました。鰻は万葉集にも夏バテに効くとされてきました。実際ビタミンA、B1、C、Eなどがとても多く特に視力を増したり皮膚の新陳代謝をよくするといわれています。ビタミンAの含有量は非常に高いといわれています。本園では、今後も旬の食材をふんだんに使った給食を提供したいと考えています。次

第二白ゆり保育園の園児を支える先生たち

トレバー先生は、カナダから来日以来17年間保育園の英語の先生として子ども達に優しく、時には厳しく英語を教えてください。言葉は幼少期に学ぶと自然に身につくことは、周知されているので、本園では3歳児のすみれ組から取り入れていきます。子ども達はトレバー先生の発音するネイティブイングリッシュを耳

『ゆり組』は、4月から地上の星・GUTS！・創作太鼓の3曲を練習して、7月の夏祭りで初めて保護者の皆様の前で発表させていただきます。そして次の課題曲は（みんながみんな英雄&携帯電話 a u の三太郎シリーズで有名な『海の声』（桐谷健太）です。この曲は、子どもも大人もよく知っている童謡浦島太郎を題材にした歌で、親しみも有り、歌ったり演奏しているとう宮城の出来事が自然と浮かんでくるようです。この

トレバー先生の英語教室



で聞いて同じような発音をするので、本当に驚きです。小学校でも5年生から英語が必修になっていきますが、できれば1年生くらいから始めてほしいものです。因にトレバー先生の本業はプロのカメラマンです。※左の自撮り写真は、ロッククライム中のトレバー先生です。

音体指導とは

音体指導でお世話になっている全日本幼児教育連盟は、昭和30年に発足し、以来『音体教育理論』の下、美しい姿勢作りや腹式呼吸、発声と言語、朗読と瞑想、リトミックや体育遊び等の基礎指導に併せて、挨拶、マナー、はじめ、忍耐力、協調性等を培う『たたくまい教育』を重視し、これらを基調とした様々な活動を通して、幼児期でなければ育めない心身一如的な感性教育を現場の先生方と日々取り組むことを目指しているそうです。余

曲は、音体指導の安宮先生の評価も高く指導日には毎回熱心なご指導を賜っています。本園職員（吉原・神原）も福山市で行われた沖縄民謡エーサーの研修会に参加し、太鼓の打ち方や踊りの型を勉強した上で、園児たちの指導に当たっていますので、運動会での子ども達の発表をご期待ください。



談ではありませんが、私は、最近音体指導の安宮先生と、リオオリンピック銅メダリスト、シンクロロナイズドスイミング井村雅代ヘッドコーチが少し似ているのではないかと思っています。同じ大阪出身で関西弁を話し、熱の籠った指導等です。井村コーチのお言葉に『技術的なトレーニングよりも、むしろ心のトレーニングが大切である』とありますが、この言葉を胸に今後音体指導頑張ります。



全日本幼児教育連盟 会長 島山國彦氏

代表：吉田千賀子先生



コーチ：若林裕樹先生



運動会の花形、器械体操の指導をしていただいている『岡山ジュニア体操スクール』の先生をご紹介します。社長兼メイン指導者の吉田先生は、日本体育大学の体操部OGで、抜群の指導力を発揮されています。若林コーチも同じく日本大体操部出身で、超有名な『田中理恵』さんにとってもかわいがられているそうです。

編集後記

9月10日広島東洋カープ優勝おめでとうございます。野球少年だった遠い昔の自分を思い出しながら編集後記を書いていきます。オリンピックで沸いた夏もあつという間に終わり、第二白ゆり保育園ではこれからが正念場運動会を皮切りに大きな行事が続きます。今後温かい励ましの声を絶えず間なくお願い申し上げます。ところで、今回このような新聞形式の『保育園だより』を発行したのは、昨年度から始まった、子ども子育て新制度に由来します。保育園も新法

により、明確に就学前の子ども達の教育を担う施設となったので、我々職員も今一度、我園の教育内容を精査し、分りやすく示そうと思ひ、発行するに至りました。留意点としては、白ゆり保育園の創始者『長尾竹与先生（故人）』の理念と同じお考えだった、『和多美知子先生』が長年に渡り研究され、本園が手本としている著書の内容を保護者と職員が共通認識できるような編集しました。但し、初めての試みなので、わかりにくい点も多くあるので、ご遠慮なく担任までご質問戴ければ幸いに思ひます。

白桃にまつわるお話

今年で5年目を迎えた桃の栽培ですが、今年は暖冬・長雨・穿孔細菌病という病気で収穫が平年の半分ぐらいになってしまいました。自然が相手の桃栽培なので、時には苦労することもあります。子ども達の『おいしい』という満面の笑顔を見ていると、来年も頑張ってください。来年の目標は、袋かけ3000個、1個の重さ600g超の清水白桃収穫です。（頑張ります。）